# 第2次札幌市まちづくり戦略ビジョン

## ビジョン編（案） 概要版

# 第２次札幌市まちづくり戦略ビジョン＜ビジョン編＞の構成

## 第１章　はじめに（Ｐ１）

策定の趣旨、位置付け・構成、計画期間

## 第２章　札幌市の現在と将来に関する考察（Ｐ２～１０）

札幌市の歴史、札幌市の魅力・特徴、第1次戦略ビジョンに基づくまちづくりの取組結果、昨今の社会経済情勢、SDGsの視点から見た札幌市

## 第３章　目指すべき都市像とまちづくりの重要概念（Ｐ１１～１３）

＜札幌市の現在と将来に関する考察のまとめ＞
人口減少の緩和を進めることはもとより、人口構造を始めとする様々な変化に大きな影響を受けず、その変化を積極的に生かし持続的に成長していくことが必要

### 目指すべき都市像

**「ひと」「ゆき」「みどり」の織りなす輝きが、豊かな暮らしと新たな価値を創る、持続可能な世界都市・さっぽろ**

### まちづくりの重要概念

| ユニバーサル（共生） | ウェルネス（健康） | スマート（快適・先端） |
|---|---|---|
| 誰もが互いにその個性や能力を認め合い、多様性が強みとなる社会の実現 | 誰もが生涯健康で、学び、自分らしく活躍できる社会の実現 | 誰もが先端技術などにより快適に暮らし、新たな価値の創出に挑戦できる社会の実現 |

## 第４章　まちづくりの基本目標（Ｐ１４～２９）

| 子ども・若者 | 生活・暮らし | 地域 | 安全・安心 | 経済 | スポーツ・文化 | 環境 | 都市空間 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|

## 第５章　目指すべき都市像の実現とまちづくりの基本目標の達成に向けて（Ｐ３０）

市民が主役のまちづくり・多様な主体による連携
北海道と共に発展する札幌市
ＳＤＧｓの視点を踏まえたまちづくり
第２次札幌市まちづくり戦略ビジョン＜戦略編＞の策定

# 第１章　はじめに

## １　策定の趣旨

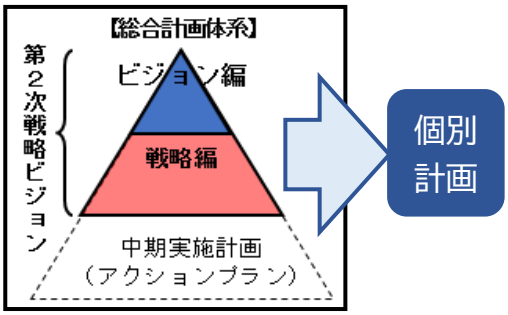
札幌市の人口はこれまで増加傾向が続いてきましたが、減少局面を迎えており、人口構造に変化が生じることが予想されています。また、今般の新型コロナウイルス感染症の感染拡大による人々の行動変容やデジタル化の進展など、世界の社会経済情勢も大きく変わっていくことが見込まれており、こうした状況を的確に捉え、様々な環境の変化を見通しながら、北海道や道内他市町村とも連携して危機感を持ち対応していくことが求められています。

また、札幌市は、令和４年（２０２２年）に市制施行１００周年を迎えます。魅力的なこのまちを次の世代に引き継いでいくため、ＳＤＧｓ[1]の視点を踏まえ、持続可能[2]なまちづくりを進めていくとともに、都市としての価値を創造し、高めていくことが必要です。

そこで、多様な主体が札幌市の目指すべきまちの姿とまちづくりの方向性を共有し、共に取り組んでいくために、次の新たな１００年の礎となる今後１０年のまちづくりの基本的な指針として、「第２次札幌市まちづくり戦略ビジョン」（以下「第２次戦略ビジョン」という。）を策定します。

## ２　位置付け・構成

第２次戦略ビジョンは、まちづくりの基本的な指針として、札幌市自治基本条例第１７条の規定に基づき策定するもので、札幌市の計画体系では最上位に位置し、様々な分野における個別計画はこれに沿って策定されます。




| | |
|---|---|
| ビジョン編 | ・目指すべき都市像<br>・目指すべき都市像の実現に向けたまちづくりの基本目標（政策の基本的な方向性） |
| 戦略編 | ・まちづくりの基本目標の達成に向けて札幌市（行政）が取り組む手法（施策） |
| 中期実施計画<br>（アクションプラン） | ・第２次戦略ビジョンに基づいて札幌市（行政）が行う事業 |

## ３　計画期間

第２次戦略ビジョンの計画期間は、令和４年度（２０２２年度）から令和１３年度（２０３１年度）までの１０年間とします。

---

[1] 【ＳＤＧｓ】Sustainable Development Goals の略。平成２７年（２０１５年）９月の国連サミットで採択された令和１２年（２０３０年）までの世界共通の目標である「持続可能な開発目標」のこと。「誰一人取り残さない」という理念の下、１７のゴール（目標）と１６９のターゲット（取組・手段）で構成され、全ての主体が取り組む普遍的なもの

[2] 【持続可能】 人間活動、特に文明の利器を用いた活動が、将来にわたって持続できるかどうかを表す概念。環境問題やエネルギー問題だけでなく、経済や社会など人間活動全般に用いられる。

# 第２章　札幌市の現在と将来に関する考察

札幌市はこれまで魅力や特徴を生かし、世界的な大都市へと飛躍的な発展を遂げてきました。

しかし、今後は少子高齢化を始め、第１次戦略ビジョンに基づくまちづくりの取組結果などから導き出される様々な課題への対応が必要になるほか、札幌市を取り巻く社会経済情勢はこれからも大きく変化していくことが見込まれ、この変化を的確に捉え、危機感を持ち対応していくことが求められます。この章では、市民アンケートの結果やＳＤＧｓの視点を踏まえながら、札幌市の現在と将来に関する考察を示します。

## １　札幌市の歴史

札幌市は、自然の恵みと共に暮らしてきた人たちと、日本各地から移り住んできた人たちとが、それぞれの伝統と文化を紡ぎ、育みながら、外国の先進の英知を取り入れ、世界的な大都市へと飛躍的な発展を遂げてきました。

## ２　札幌市の魅力・特徴

**✔市民愛着度の高さ**

・市民の札幌の街に対する愛着度は９２．３％、定住意欲も非常に高い。

**✔豊かな自然環境**

・政令指定都市の中でも高い緑被率、冷涼な夏、年間約５ｍもの降雪と共存する大都市。

**✔都市機能の集積**

・地下鉄やＪＲなどの骨格的な公共交通ネットワーク。
・大学など研究機関の集積。
・ICT 関連企業の集積（政令指定都市の中で市内 IT 産業の事業所数は５位、従業員数は６位に多い）。
・医療機能の集積（人口１０万人当たりの一般病院数が政令指定都市の中で２位）。
・都心から近いウインタースポーツ環境。
・身近な文化芸術（hitaru、kitara 等の文化芸術施設を整備、ユネスコ創造都市ネットワークへの加盟が認定）。

**✔環境面での高い評価**

・国内の都市として初めて、国際的な環境性能評価システム「LEED」において、最高ランクの「プラチナ」認証を取得。

**✔スタートアップ・エコシステムの拠点としての評価**

**✔都市としての高いブランドイメージ**

・民間調査機関による魅力度ランキングで国内１位。

**✔食の魅力**

・食品製造事業者や飲食店が集積し、北海道産の新鮮で美味しい「食」が国内外の人々を魅了。

**✔観光満足度の高さ**

・外国人観光客、日本人観光客の満足度も高い数値。

**✔住みやすさ**

・他の大規模自治体と比べ１か月当たりの家賃が安価、通勤・通学時間も短い。
・民間調査機関による都道府県庁所在地別「住みよい街」ランキング３位。

**✔財政の健全性**

・実質公債費比率や将来負担比率は政令指定都市でトップレベルの低さ。

## ３　第１次戦略ビジョンに基づくまちづくりの取組結果

第１次戦略ビジョンでは、「目指すべき都市像」として「北海道の未来を創造し、世界が憧れるまち」と「互いに手を携え、心豊かにつながる共生のまち」を掲げました。第１次戦略ビジョンのビジョン編ではこの都市像の実現に向けて、７つの「まちづくりの分野」と２４の「まちづくりの基本目標」を設定するとともに、戦略編ではこの７つの「まちづくりの分野」を横断的な視点で整理した上で、パラダイム[3]の転換が必要となる「暮らし・コミュニティ」・「産業・活力」・「低炭素社会・エネルギー転換」の３つのテーマを選択し、重点的に施策を展開してきました。

第１次戦略ビジョンに基づいて市民、企業、行政などが一体となってまちづくりを進めてきた結果について、「まちづくりの分野」ごとにこれまでの取組を振り返り、市民アンケートの結果と人口・経済・財政の３つの主要指標の状況も踏まえながら、札幌市が抱える課題を示します。

**■第１次戦略ビジョンにおける７つの「まちづくりの分野」と２４の「まちづくりの基本目標」**

―目指すべき都市像―
北海道の未来を創造し、世界が憧れるまち　互いに手を携え、心豊かにつながる共生のまち

「まちづくりの分野」ごとに「まちづくりの基本目標」を設定

| まちづくりの分野 | まちづくりの基本目標 |
|---|---|
| 1　地域 | 1　共生と交流により人と人がつながるまちにします<br>2　様々な担い手が地域のまちづくり活動に参加するまちにします<br>3　多様な地域課題を解決できるまちにします |
| 2　経済 | 4　強みを生かした産業が経済をけん引するまちにします<br>5　様々な連携により産業が高度化するまちにします<br>6　市民の雇用が安定的に確保されるまちにします<br>7　強みを生かし世界とつながるまちにします<br>8　地域コミュニティを支える産業を大切にするまちにします |
| 3　子ども・若者 | 9　安心して子どもを生み育てられるまちにします<br>10　将来を担う子どもの成長と自立を支えるまちにします<br>11　若者が社会的に自立し活躍できるまちにします |
| 4　安全・安心 | 12　誰もが健康的で安心して暮らせるまちにします<br>13　地域防災力が高く災害に強いまちにします<br>14　安全な日常生活が送れるまちにします |
| 5　環境 | 15　豊かな自然と共生するまちにします<br>16　資源やエネルギーを有効活用するまちにします<br>17　市民が環境について学び行動するまちにします |
| 6　文化 | 18　創造的な活動により活力あふれるまちにします<br>19　文化芸術やスポーツの魅力によりにぎわいが生まれるまちにします<br>20　市民一人一人が魅力を再認識し発信するまちにします |
| 7　都市空間 | 21　公共交通を中心とした集約型のまちにします<br>22　札幌の顔となる魅力と活力あふれる都心にします<br>23　都市の価値を高めるみどりを生かしたまちにします<br>24　都市基盤が適切に維持・保全されるまちにします |

[3] 【パラダイム】ここでは、ある時代や分野において支配的規範となる「物の見方や捉え方」のことをいう。

**✔市民アンケートの結果（市民１万人を対象、回答率２２．７%）**

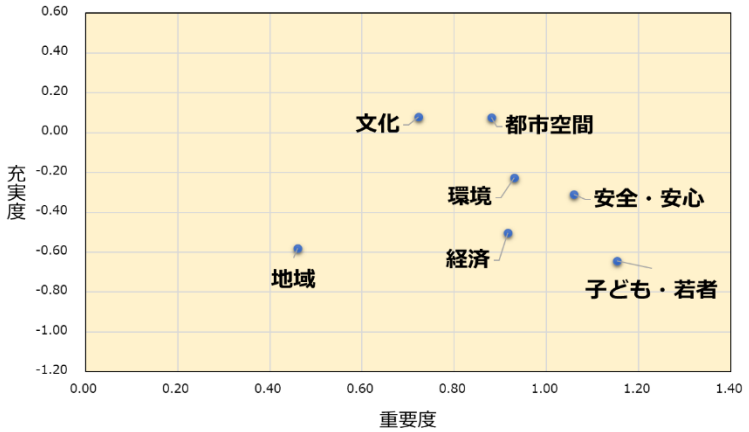
・現在までの「充実度」は、「文化」・「都市空間」の分野が高く、「子ども・若者」の分野が低い。

・今後の「重要度」は、「子ども・若者」の分野が高く、「地域」の分野が低い。

第１次戦略ビジョンに掲げる７つの「まちづくりの分野」と２４の「まちづくりの基本目標」について、現在までの「充実度」と今後の「重要度」に関する質問を設けました。

７つの「まちづくりの分野」と、２４の「まちづくりの基本目標」に関する現在までの「充実度」と今後の「重要度」の各項目の評価結果は下記のとおりとなっています。

■各分野の比較（各分野の回答を点数化し、加重平均値[4]を算出）




＜資料＞札幌市

■現在までの「充実度」の上位・下位３項目

| 順位 | 項目 |
|---|---|
| 1 | 北海道の食の魅力を生かした食産業が発展している |
| 2 | 雪やウインタースポーツを楽しむ環境が整っている |
| 3 | 地下鉄や路面電車沿線では、買い物・通院などの生活利便性の高い暮らしの場が形成されている |
| | |
| | |
| 64 | 商店・商店街が活性化し、地域に賑わいを生み出している |
| 65 | 虐待やいじめ、不登校などに適切に対応する体制が整っている |
| 66 | 地域において、子どもから高齢者までの多世代間の交流が活発である |

■今後の「重要度」の上位・下位３項目

| 順位 | 項目 |
|---|---|
| 1 | 働きながら子育てができる環境が整っている |
| 2 | 北海道の食の魅力を生かした食産業が発展している |
| 3 | 安心して子どもを生み育てることができる環境が整っている |
| | |
| | |
| 64 | 町内会や市民活動団体、行政や企業等、様々な団体により地域の課題解決に向けた活動が行われている |
| 65 | 地域において、子どもから高齢者までの多世代間の交流が活発である |
| 66 | 地域住民が町内会・自治会に参加し、まちづくり活動が活発に行われている |

＜資料＞札幌市

[4] 【加重平均値】各データの重みを加味した上で計算をした平均値

## ✔主要指標の状況

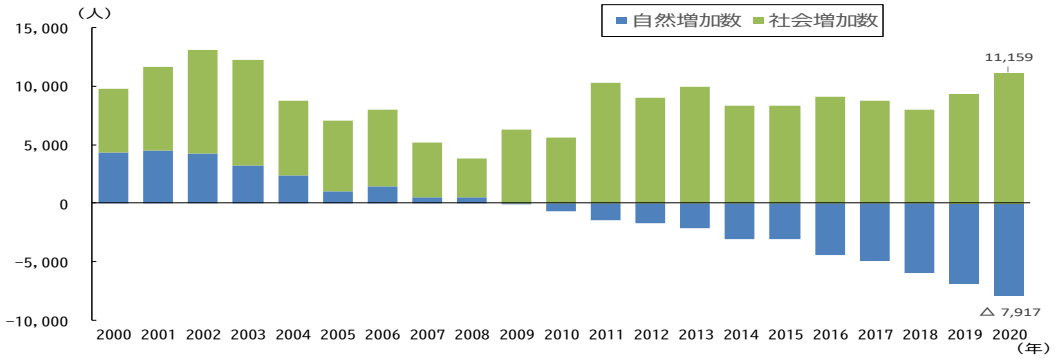
### ①人口

・これまで増加の一途をたどってきた札幌市の人口は減少局面を迎え、人口構造に変化が生じることが予想。

・６５歳以上の高齢者人口は２０４０年にピークを迎え、約４割を占める見込みであるほか、令和２年（２０２０年）の合計特殊出生率は１．０９と少子化が進んでいる。

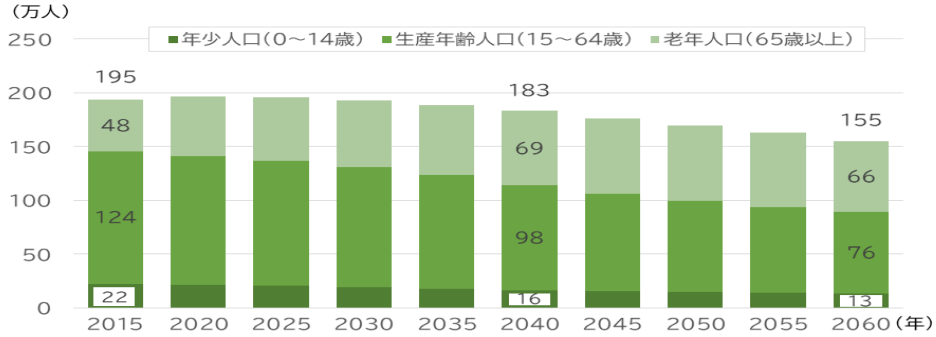
・２０代の若年層の道外への転出超過の傾向も続いており、生産年齢人口は更に減少し、推計では２０４０年代に１００万人を割る見込み。

■札幌市の人口動態の推移




＜資料＞札幌市

■札幌市の人口の将来見通し

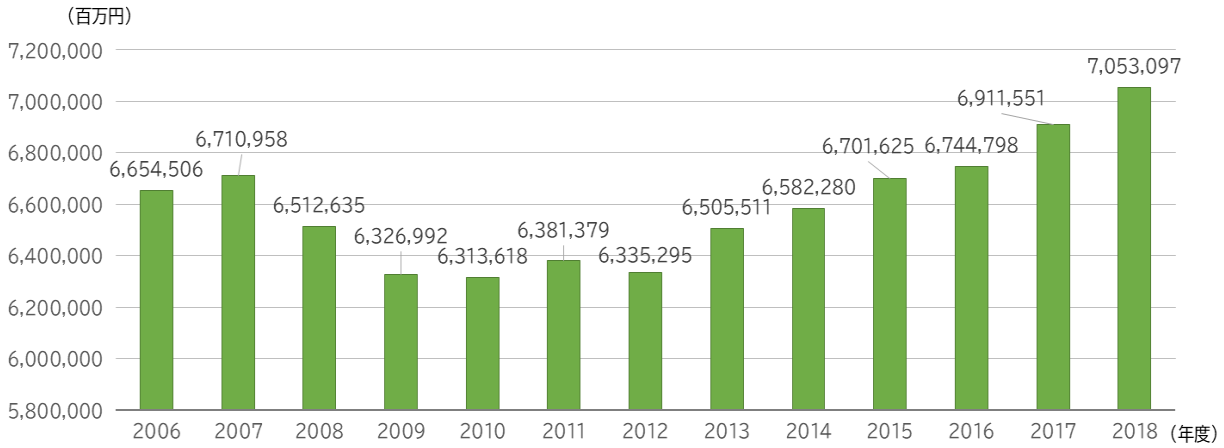



＜資料＞総務省「国勢調査」、札幌市
※各年 10 月 1 日現在。平成27年（2015 年）の総数には年齢「不詳」を含む。
四捨五入により合計が一致しない場合がある。

**②経済**

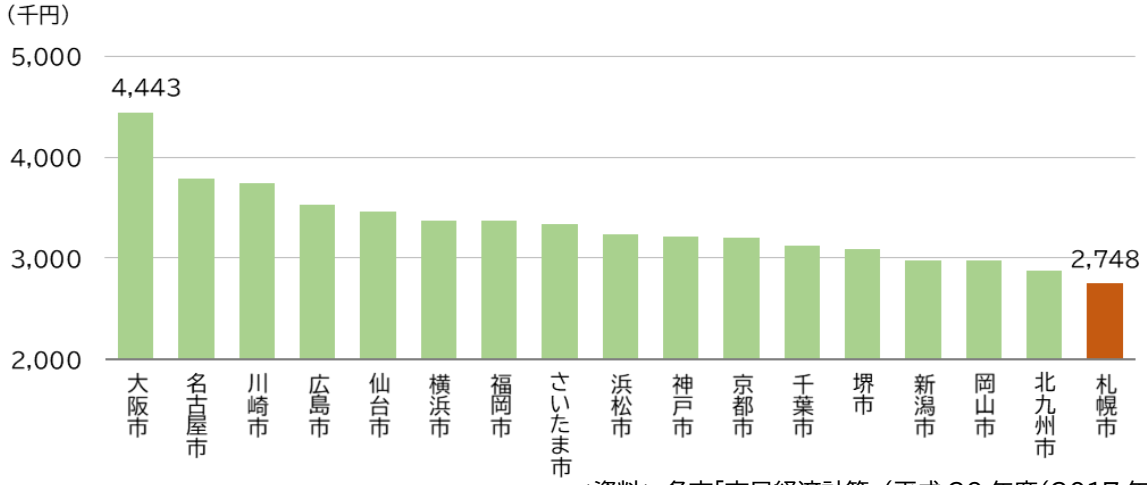
・市内総生産（名目）は、平成２０年（２００８年）のリーマンショック[5]をきっかけとした世界同時不況の影響を受けて大きく落ち込んだが、平成２４年度（２０１２年度）以降は堅調に推移。
・一人当たりの市民所得[6]は、政令指定都市の中でも低位。
・令和２年（２０２０年）以降は、新型コロナウイルス感染症の感染拡大により、札幌経済をけん引してきた食や観光などの産業を中心に、市内企業の経営や雇用に大きな影響が生じている。
・今後は人口減少に伴う市内経済規模の縮小が予想。

■市内総生産（名目）の推移




＜資料＞札幌市

■一人当たりの市民所得




＜資料＞各市「市民経済計算」（平成 29 年度（2017 年度））
※数値不明の都市を除く政令指定都市比較を記載。

[5] 【リーマンショック】平成２０年（２００８年）の秋に発生した国際的な金融危機の引き金となった米国の投資銀行の経営破綻とその後の株価暴落などのこと
[6] 【一人当たりの市民所得】企業の所得なども含んだ市民経済全体の水準を表す指標。市民個人の給与や実収入などの平均値とは異なる。

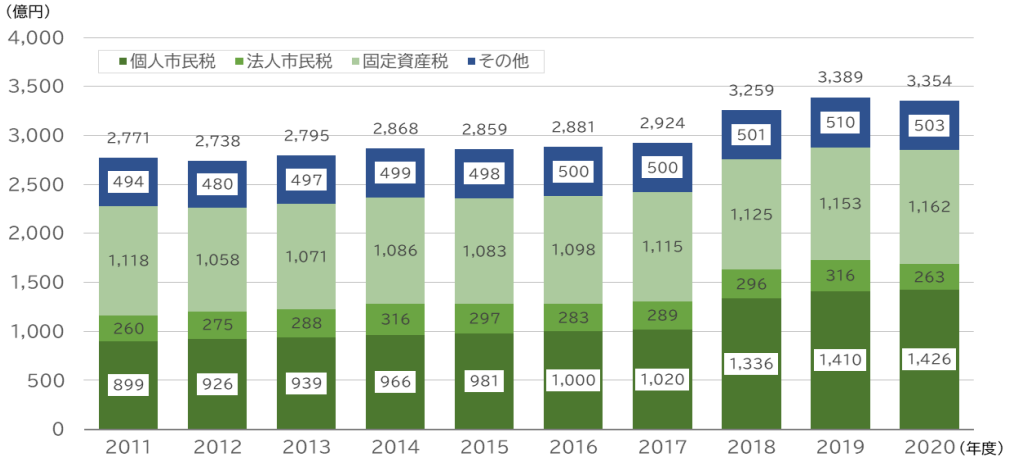
**③財政**

・市税収入は、個人市民税、固定資産税などが増加したことにより、平成２４年度（２０１２年度）と比較すると増加傾向（平成２９年度（２０１７年度）の税制改正による小・中学校などの教職員の給与負担事務の札幌市への移管に伴う税源移譲による影響を含む。）。

・経常収支比率[7]は比較的健全な状況を維持してきた一方で、財政力指数[8]は他の政令指定都市と比較して低い状況。

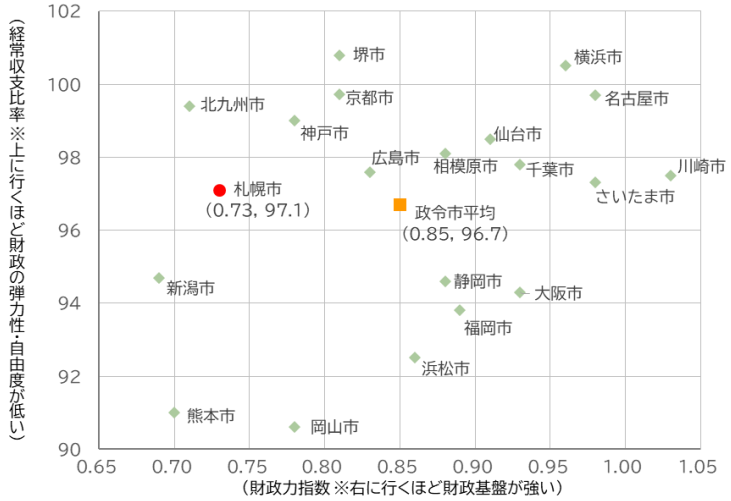
・今後１９７０年代から１９８０年代前半に集中的に整備してきた公共施設の更新時期が一斉に到来。

■市税収入の推移




＜資料＞札幌市

■都市別財政力指数･経常収支比率




＜資料＞各市（令和2年度（2020 年度））

[7] 【経常収支比率】市税や地方交付税などの経常的に入ってくる収入が、毎年経常的に支出される経費（人件費、扶助費、公債費など）にどれだけ使われているかを示したもの。高いほど、財政の弾力性・自由度が低いといえる。

[8] 【財政力指数】地方公共団体の財政力を示す指標として用いられる指数。基準財政収入額（地方税などの収入）を基準財政需要額（地方公共団体が標準的な行政を行う場合に必要な一般財源額）で除して得た数値の過去３年間の平均値。高いほど、財源に余裕があるといえる。

✔**総括**

・第１次戦略ビジョンに掲げる７つの「まちづくりの分野」ごとの主な取組結果（成果と課題）は次表のとおり。

・生産年齢人口が減少する中でも、都市基盤の再整備や経済の活性化などの将来の魅力や活力を生み出す取組に注力してきた結果、全国的な景気の回復基調もあり、市内総生産や市税収入も増加するなど、一定の成果を示すことができた。

・しかし、これまで一貫して増加傾向にあった札幌市の人口も、減少局面を迎えている。

・合計特殊出生率や一人当たりの市民所得、財政力指数等は他の政令指定都市などと比較して下位となっており、これらに課題を抱えている。

| | |
|---|---|
| 地域分野 | ・さぽーとほっと基金への寄附件数が大きく増加し、金額も堅調に推移するなど、市民まちづくり活動の一つとして寄附文化が浸透してきているほか、企業のまちづくり活動への参加数も堅調に推移。<br>・地域コミュニティ活動を担う団体として町内会の重要性は認識されているものの、町内会の加入率は緩やかに減少。 |
| 経済分野 | ・食や観光などの分野の活性化に加え、ＩＴやクリエイティブ、健康福祉・医療などの産業が成長<br>・女性や高齢者の有業率の低さや、一部の産業における人手不足といった課題が顕著 |
| 子ども・若者分野 | ・子育てしながら働くことができる環境の充実に向けて、認可保育所や地域型保育事業所などの整備を力強く推し進め、国定義での待機児童の数が０人となったほか、母親が就労している割合も大幅に増加。<br>・仕事と生活の調和が取れていると思う人の割合や子どもを生み育てたい環境だと思う人の割合は低下。 |
| 安全・安心分野 | ・高齢者福祉支援として、各地区福祉のまち推進センターを中心に、見守り活動などの支え合い活動を展開したことにより、生活や健康・福祉に関して困っていることや相談したいことの相談先がない高齢者の割合は大きく改善。<br>・健康寿命が男女共に全国平均を下回っていることや、ホテル等の民間施設のバリアフリー化に課題。 |
| 環境分野 | ・循環型社会の実現に向けた取組を推進したことなどにより、家庭ごみと事業ごみの一人１日当たりの排出量は政令指定都市の中でもトップレベルの少なさとなっているとともに、森林や農地等の保全などにより、市街地の豊かなみどりが守られている。<br>・一方、再生可能エネルギーの導入状況は鈍化しており、更なる導入拡大を図っていく必要。 |
| 文化分野 | ・大規模な文化芸術・スポーツイベントを開催し、文化芸術やスポーツの鑑賞・観戦を行う市民の割合は増加。<br>・ウインタースポーツ実施率は減少傾向にあり、子どもの体力は全国平均よりも低い。 |
| 都市空間分野 | ・都心の民間再開発や地域交流拠点の機能強化などを進めるとともに、郊外住宅地では良好な居住環境を維持・形成してきたほか、交通施設や車両のバリアフリー化を進めるなど、公共交通の利便性の向上を図ってきた。<br>・児童数の減少により小・中学校を統合した地域や、利用者の減少、運転手不足等によりバスの運行便数が減少した地域などがある。 |

## ４　昨今の社会経済情勢

### ✔価値観やライフスタイルの多様化

・価値観やライフスタイルが多様化する中、今後は、一人一人の個性や違いを理解するだけではなく、支える人と支えられる人という一方向の関係性を超え、双方向に支え合うという視点がこれまで以上に重要。

・心のバリアフリーを推進していくことや、誰一人取り残さないという認識の下、子どもの貧困、児童虐待などの様々な課題に的確に対応していくことが求められている。

### ✔人生１００年時代[9]の到来

・国は、少子高齢化が進む中で人生１００年時代を迎えるに当たり、これまでの「教育・仕事・老後」という三つのステージの人生ではなく、多様な人生を可能にする社会の実現を目指している。

・生涯学習や多様な就労などの社会参加ができる環境の整備を進めるとともに、介護予防やフレイルへの対策などの「予防・健康づくり」を強化し、健康寿命を延伸することが求められている。

### ✔デジタル技術の急速な進歩

・国は、急速に進化しているデジタル技術を地方から実装し、地方の活性化を進めるとともに、新型コロナウイルス感染症の感染拡大の中でも経済をけん引し、新たな成長の原動力となるデジタル分野について、将来に向けた積極的な成長戦略を進めることとしている。

・生活をあらゆる面で良い方向に変化させる「デジタルトランスフォーメーション（ＤＸ）[10]」を実現していくことが求められている。

### ✔気候変動などに伴う地球規模での環境保全の動き

・近年、温室効果ガス排出量の増加に伴う平均気温の上昇や降水量の変化などの気候変動による災害が世界各地で頻発しており、平成２７年（２０１５年）の「パリ協定」を受け、国は、令和３２年（２０５０年）までに温室効果ガス排出量を実質ゼロにする目標を掲げている。また、金融分野では、環境（Environment）・社会（Social）・企業統治（Governance）を重視するＥＳＧ投資が注目されている。

・環境への負荷を最小限にとどめる持続可能な脱炭素社会を形成していくことが求められている。

### ✔都市のリニューアル

・札幌オリンピックの開催を契機に、当時形成した都市基盤の老朽化が進んでいる。

・札幌市は令和１２年（２０３０年）の冬季オリンピック・パラリンピックの国内候補地に内定したほか、令和１２年度（２０３０年度）末には北海道新幹線の札幌延伸・開業が予定されており、人の流れや物流が大きく変化していくことが見込まれている。

・これらに合わせて、民間開発の動きが更に活発化することから、このような機会を最大限に活用し、投資を促しながら、都市のリニューアルを進めていくことが求められている。

---

[9] 【人生１００年時代】ロンドン・ビジネス・スクール教授であるリンダ・グラットン氏が共著「ライフ・シフト　１００年時代の人生戦略」で提唱した言葉。寿命の長期化により先進国の平成１９年（２００７年）生まれの２人に１人が１０３歳まで生きる時代が到来するとし、１００年間生きることを前提とした人生設計の必要性を論じたもの

[10] 【デジタルトランスフォーメーション】デジタル技術の活用により、ビジネスモデルの改変や市民生活の質の向上を始めとした社会や経済、生活といったあらゆる面における大きな変革をもたらすこと

✔**頻発する自然災害**

・平成３０年（２０１８年）に発生した北海道胆振東部地震を始めとして、近年、北海道においても自然災害が頻発し、各地域で大きな被害が生じている。

・自然災害を始めとする危機に直面した場合にあっても、人命を守り、被害や影響を最小限に抑えていくことが求められている。

✔**新型コロナウイルス感染症の感染拡大**

・令和２年（２０２０年）に国内で初めて感染が確認された新型コロナウイルス感染症は、札幌市においても感染が拡大し、日常生活や社会経済活動に大きな影響を及ぼしている。

・今後は、こうした感染症の感染拡大時においても日常生活や社会経済活動への影響を最小限に抑えながら、感染拡大のリスクを低減させることが求められている。

## ５　ＳＤＧｓの視点から見た札幌市

✔**ＳＤＧｓについて**

・平成２７年（２０１５年）９月の国連サミットにおいて、「持続可能な解決のための２０３０アジェンダ」が採択され、その中に令和１２年（２０３０年）までの「持続可能な開発目標（ＳＤＧｓ：Sustainable Development Goals)」として、１７のゴールと１６９のターゲットが設定。

・ＳＤＧｓは、中長期的な観点の下、「経済・社会・環境」の３側面の課題を統合的に解決しながら、持続可能で多様性と包摂性[11]のある社会を実現することを目標としている。

・札幌市は、平成３０年（２０１８年）にＳＤＧｓの達成に向けた優れた取組を提案する「ＳＤＧｓ未来都市[12]」に選定されており、総合的な実施計画の策定や各種取組の実施に当たっては、ＳＤＧｓの視点や趣旨を反映させることとしている。

✔**ＳＤＧｓローカル指標による分析**

・国が示す「地方創生ＳＤＧｓローカル指標[13]」を用いて他の政令指定都市との比較分析を実施。

・札幌市は、他の政令指定都市と比べて、最寄りの交通機関までの距離が短い普通世帯[14]の数が多い、上下水道や道路などのインフラの整備率が高い、大気中の微小粒子状物質（ＰＭ２．５）等の濃度が低い、人口当たりの公園の面積が大きいなどの特徴があり、空気がきれいで自然豊かなコンパクトな都市であるといえる。

・一方、失業率や離職率が高いほか、市内総生産は増加傾向にあるものの、一人当たりで見ると低位となっている。また、実質公債費比率が低く、札幌市の財政は健全であるといえるものの、歳入総額に対する地方税収入の割合が低いなど、全体として「稼ぐ」ことに課題。

・さらに、がんや糖尿病による死亡率や喫煙率が高く、健康の分野にも課題。

---

[11] 【包摂性】ある事柄を一定の範囲の中に包み込むさま。なお、社会的に弱い立場にある人々を含めて一人一人について、排除や摩擦、孤独や孤立から援護し、社会の一員として取り込み、支え合う考え方を社会的包摂という。

[12] 【ＳＤＧｓ未来都市】ＳＤＧｓの理念に沿った基本的・総合的取組を推進しようとする都市・地域の中から、特に、経済・社会・環境の３側面における新しい価値創出を通して持続可能な開発を実現するポテンシャルが高い都市・地域として、国が選定するもの

[13] 【地方創生ＳＤＧｓローカル指標】自治体がＳＤＧｓの取組の進捗状況を客観的に把握するための指標として、自治体ＳＤＧｓ推進評価・調査検討会が示しているもの

[14] 【普通世帯】住居と生計を共にしている家族などの世帯

# 第３章　目指すべき都市像とまちづくりの重要概念

この章では、第２章の札幌市の現在と将来に関する考察を踏まえ、今後のまちづくりを進めるに当たり、市民、企業、行政などの多様な主体が共有できる札幌市の将来のまちの姿を、「目指すべき都市像」として掲げるとともに、この都市像の実現に向けて、まちづくりを進めていく上での重要な概念を「まちづくりの重要概念」として定めます。

## １　札幌市の現在と将来に関する考察のまとめ

札幌市は、自然の恵みと共に暮らしてきた人たちと、日本各地から移り住んできた人たちとが、北の大地でそれぞれの伝統と文化を紡ぎ、育みながら、外国の先進の英知を取り入れていくという、様々な「ひと」のつながり・支え合いや多様性を受け入れる風土によって、短期間で飛躍的な成長を遂げてきました。

今では、年間約５ｍもの「ゆき」が降る地域にありながら、１９０万人を超える市民が生活するという、世界でもまれな都市に発展しています。また、北海道の中心都市として、都市機能を高めながらも、郊外に広がる森林や都心の大通公園などの豊かな「みどり」を保っています。

この「ゆき」との共生や「みどり」との調和も札幌市が持つ魅力であり、これらを生かして、さっぽろ雪まつりやアジア初の冬季オリンピックの開催、札幌芸術の森やモエレ沼公園の造成などの世界に誇るプロジェクトを成功させてきました。

このような特徴を持つ札幌市は、令和４年（２０２２年）に市制施行１００周年を迎え、次なる１００年のスタート地点にいます。一方で、これまで増加の一途をたどってきた人口も減少局面を迎え、少子高齢化や生産年齢人口の減少が更に進行し、これらに起因して市内経済規模の縮小や公共交通の利便性の低下などの日常生活への影響が懸念されるほか、長期的な市税収入の減少や社会保障などの財政需要の増大により、行政サービスの低下につながりかねない状況となっています。

また、新型コロナウイルス感染症の世界的な感染拡大は、市民生活や社会経済活動に大きな影響を及ぼしており、こうした感染症との共存や感染症の収束後を見据えた取組も必要です。さらに、令和１２年（２０３０年）までの持続可能な開発目標（ＳＤＧｓ）の達成や、脱炭素社会の実現に向け、国際社会の一員としての取組を加速させていく時期でもあります。

このため、今後は、人口減少の緩和を進めることはもとより、人口構造を始めとする様々な変化に大きな影響を受けず、その変化を積極的に生かし持続的に成長していくことが必要です。

## ２　目指すべき都市像とまちづくりの重要概念

札幌市の特徴である「ゆき」や「みどり」といった自然の恵みが守られ、さらには生かされた中で、子どもから大人までのあらゆる世代の「ひと」や多様な「ひと」が交わり、一人一人の思いがつながって、新しい時代にふさわしい真に豊かな暮らしを創る、また、経済や学術、スポーツ、文化、健康、環境などの様々な分野において、新たな価値を生み出す。このことで、国内外から活力を呼び込み、人口減少などの成熟社会における課題を一早く解決する拠点として、世界をリードし、持続可能で、多様性と包摂性のある世界都市[15]を目指します。

[15] 【世界都市】ここでは、政治や経済、文化などの分野において、世界に対して高い影響力を持つ都市をいう。

そのためには、誰もが互いにその個性や能力を認め合い、多様性が強みとなっていること、誰もが生涯健康で、学び、自分らしく活躍できていること、誰もが先端技術などにより快適に暮らし、新たな価値の創出に挑戦できることが重要です。そこで、「目指すべき都市像」と「まちづくりの重要概念」を次のとおり定めます。

## ＜目指すべき都市像＞

**「ひと」「ゆき」「みどり」の織りなす輝きが、豊かな暮らしと新たな価値を創る、持続可能な世界都市・さっぽろ**

## ＜まちづくりの重要概念＞

### ユニバーサル（共生）

**「誰もが互いにその個性や能力を認め合い、多様性が強みとなる社会」を実現**するに当たっては、多様性と包摂性があり、格差なく均等に機会が得られる社会の実現を目指して、移動環境や建物等のバリアフリー化や心のバリアフリーなどを進め、日常生活を始めとして様々な場面における障壁や困難を解消し、誰もが他者とつながり、交流できる環境を整えていくことが必要になります。

そこで、「誰もが多様性を尊重し、互いに手を携え、心豊かにつながること。また、支える人と支えられる人という一方向の関係性を超え、双方向に支え合うこと」を「ユニバーサル（共生）」として「まちづくりの重要概念」に定めます。

### ウェルネス（健康）

**「誰もが生涯健康で、学び、自分らしく活躍できる社会」を実現**するに当たっては、人生１００年時代の到来を踏まえ、健康寿命の延伸の観点から、働く世代や若年層を対象とした「予防・健康づくり」や、居心地が良く歩きたくなる空間の形成などが必要になるほか、生涯学習や学び直しの場とともに、年齢の枠に捉われず、学習の成果や経験を生かす機会の充実などが求められています。

そこで、「誰もが幸せを感じながら生活し、生涯現役として活躍できること。身体的・精神的・社会的に健康であること」を「ウェルネス（健康）」として「まちづくりの重要概念」に定めます。

### スマート（快適・先端）

**「誰もが先端技術などにより快適に暮らし、新たな価値の創出に挑戦できる社会」を実現**するに当たっては、デジタル技術の急速な進歩を踏まえ、様々な資源を掛け合わせ、新たな価値を生み出していく観点から、スマートシティの推進、スタートアップを創出・育成する環境の整備や知的生産を行う人材の育成のほか、「ゆき」の利活用の取組が必要です。また、気候変動などの地球環境の状況を踏まえ、ゼロカーボンやレジリエンス（自己回復力・強じん性）の向上に資する取組が求められています。

そこで、「誰もが先端技術などの利点を享受でき、生活の快適性やまちの魅力が高まっていること。誰もが新たな価値や可能性の創出に向けて、挑戦できること」を「スマート（快適・先端）」として「まちづくりの重要概念」に定めます。

## 目指すべき都市像とまちづくりの重要概念

**第２章「札幌市の現在と将来に関する考察」**

札幌市の歴史　札幌市の魅力・特徴　第1次戦略ビジョンに基づくまちづくりの取組結果
昨今の社会経済情勢　SDGsの視点から見た札幌市

＜札幌市の現在と将来に関する考察のまとめ＞

人口減少の緩和を進めることはもとより、人口構造を始めとする様々な変化に大きな影響を受けず、その変化を積極的に生かし持続的に成長していくことが必要

**目指すべき都市像**

「ひと」「ゆき」「みどり」の織りなす輝きが、豊かな暮らしと新たな価値を創る、持続可能な世界都市・さっぽろ

**まちづくりの重要概念**

| ユニバーサル（共生） | ウェルネス（健康） | スマート（快適・先端） |
|---|---|---|
| 誰もが互いにその個性や能力を認め合い、多様性が強みとなる社会の実現 | 誰もが生涯健康で、学び、自分らしく活躍できる社会の実現 | 誰もが先端技術などにより快適に暮らし、新たな価値の創出に挑戦できる社会の実現 |

# 第４章　まちづくりの基本目標

この章では、「目指すべき都市像」の実現に向けて、第２章から札幌市の強みや弱み、機会と脅威を整理するとともに、「まちづくりの重要概念」である「ユニバーサル（共生）」・「ウェルネス（健康）」・「スマート（快適・先端）」のほか、ＳＤＧｓの理念やゴールを踏まえて考察し、８つの「まちづくりの分野」と２０の「まちづくりの基本目標」を定めます。

また、今後のまちづくりの方向性を具体的にイメージできるようにするため、「まちづくりの基本目標」ごとに「目指す姿」を示すとともに、市民、企業、行政などの多様な主体が具体的な目標を共有し、その目標に向かって連携しながら取り組んでいけるよう、「市民・企業など」と「行政（札幌市）」のそれぞれが取り組むべきことについて、「私たちが取り組むこと」として例示※しています。

なお、異なる分野の課題を統合的に解決していくこともＳＤＧｓの重要な考え方であることから、具体的な取組を進めるに当たっては、分野横断的な課題に対応していくことも重要になります。

**―目指すべき都市像―**

**「ひと」「ゆき」「みどり」の織りなす輝きが、豊かな暮らしと新たな価値を創る、**
**持続可能な世界都市・さっぽろ**

「まちづくりの分野」ごとに「まちづくりの基本目標」を設定

| まちづくりの分野 | まちづくりの基本目標 |
|---|---|
| 1　子ども・若者 | 1　安心して子どもを生み育てることができる、子育てに優しいまち<br>2　誰一人取り残されずに、子どもが伸び伸びと成長し、若者が希望を持って暮らすまち<br>3　一人一人の良さや可能性を大切にする教育を通して、子どもが健やかに育つまち |
| 2　生活・暮らし | 4　誰もが健康的に暮らし、生涯活躍できるまち<br>5　生活しやすく住みよいまち |
| 3　地域 | 6　互いに認め合い、支え合うまち<br>7　誰もがまちづくり活動に参加でき、コミュニティを育むまち |
| 4　安全・安心 | 8　誰もが災害に備え、迅速に回復し、復興できるまち<br>9　日常の安全が保たれたまち |
| 5　経済 | 10　強みを生かした産業が北海道の経済をけん引しているまち<br>11　多様な主体と高い生産性、チャレンジできる文化が経済成長を支えるまち<br>12　雇用が安定的に確保され、多様な働き方ができるまち |
| 6　スポーツ・文化 | 13　世界屈指のウインタースポーツシティ<br>14　四季を通じて誰もがスポーツを楽しむことができるまち<br>15　文化芸術が心の豊かさや創造性を育み、世界とつながるまち |
| 7　環境 | 16　世界に冠たる環境都市<br>17　身近なみどりを守り、育て、自然と共に暮らすまち |
| 8　都市空間 | 18　コンパクトで人にやさしい快適なまち<br>19　世界を引きつける魅力と活力あふれるまち<br>20　都市基盤を適切に維持・更新し、最大限利活用するまち |

※「私たちが取り組むこと」の例示について、概要版では一部抜粋して記載

## １　子ども・若者

**＜考察＞**

合計特殊出生率が１．０９と低い数値となっているほか、昨今では子育てへの負担感を抱える市民が増加するとともに、市民アンケートの結果を見ても子育てに関する今後のニーズが高まっているといえます。これらのことから、社会全体で子どもと子育て家庭を支えていることや、性別を問わず働きながら子育てができる環境が整っていることが重要です。

また、全国的に子どもの貧困や児童虐待が増加するとともに、教育格差が懸念される中、社会全体で虐待やいじめなどの子どもの権利が侵害される事態を防いでいることが必要です。加えて、生産年齢人口の更なる減少が予想されているとおり、若年層の道外流出という課題がある中で、将来を担う若者が未来への希望を持ち、結婚や就労などの理想のライフプランを実現していることが求められます。

さらに、国では、Society 5.0の時代を生きる子どものために「個別最適化され、創造性を育む教育」の実現を目指しており、子どもが一人一人の状況に応じた最適な教育環境の中で、健やかに、互いを尊重し合いながら学んでいることが重要です。

### 基本目標１　安心して子どもを生み育てることができる、子育てに優しいまち

| | | |
|---|---|---|
| **目指す姿** | １社会全体が、妊娠期を含めて子どもと子育てを支えています。また、子育てする人同士の交流も進んでいます。<br>２多様なニーズに応じた保育サービスや、児童が放課後に過ごす安全で心地よい居場所が整っています。<br>３ワーク・ライフ・バランス[16]が広く定着し、性別を問わず、働きながら安心して子育てができる環境が整っています。 | |
| **私たちが取り組むこと** | **市民・企業など** | **行政** |
| | ○子どもと子育てを支える意識の向上<br>○安全・安心な保育の実践<br>○ワーク・ライフ・バランスや働き方の転換への理解と実践 | ○子育て世代の交流や地域などにおける子育て支援の促進<br>○運営体制の向上や人材確保への支援<br>○子育て中の女性などの多様な働き方の推進や再就職支援 |

[16] 【ワーク・ライフ・バランス】やりがいのある仕事と充実した個人生活が調和したバランスの良い働き方・生き方

## 基本目標２　誰一人取り残されずに、子どもが伸び伸びと成長し、若者が希望を持って暮らすまち

| | | |
|---|---|---|
| **目指す姿** | １子どもの権利の保障が進み、子ども一人一人が自分らしく伸び伸びと過ごしています。また、虐待やいじめなど、権利が侵害される事態が未然に防がれ、事態が起きても迅速かつ適切に対応しています。<br>２支援や配慮が必要となる子どもや家庭が、困難な状況に応じた適切なサポートを受け、安心して過ごしています。<br>３若者は、質の高い教育などを通して成長するとともに、安心して過ごせる居場所をよりどころに社会とつながり、将来への希望を持ちながら輝いています。 | |
| **私たちが取り組むこと** | **市民・企業など** | **行政** |
| | ○子どもの権利の理解や関心の向上<br>○困難の早期把握への協力<br>○成長を支える意識の向上と実践 | ○子どもの権利の理解の促進<br>○多様な主体と連携した困難の早期把握<br>○成長と自立への支援 |

## 基本目標３　一人一人の良さや可能性を大切にする教育を通して、子どもが健やかに育つまち

| | | |
|---|---|---|
| **目指す姿** | １多様性が尊重された環境の下で、子どもは、自分の特性や興味・関心に応じた学びと他の子どもとの協働的な学びなどを通して、自立に向けて成長しています。<br>２子どもは、生涯にわたって心身の健康の保持増進を図る資質や能力を身に付けています。<br>３地域社会での体験活動など、多様な学びの機会が提供され、学校、家庭、地域、企業等が連携して子どもの成長を支えています。 | |
| **私たちが取り組むこと** | **市民・企業など** | **行政** |
| | ○多様性への理解<br>○運動に親しむことのできる機会や環境の提供<br>○学校外での実体験を伴う実習活動や講義などの多様な学びの機会の提供 | ○子どもの多様性を尊重し、可能性を最大限引き出す学びの提供<br>○体力や運動能力の向上の推進<br>○家庭、地域、企業などとの連携の促進 |

## ２　生活・暮らし

**＜考察＞**

高齢化が引き続き進行し、２０４０年代には高齢者人口が全体の４割になることが見込まれていますが、札幌市民の健康寿命は全国平均よりも低くなっています。これらのことから、高齢者などが必要な支援を受けられるとともに、多様な主体が連携し、健康づくりや介護予防の取組などが更に進んでいるほか、市民や企業が健康への意識を高く持っていることが重要です。加えて、人生１００年時代の到来を受けて、生涯学習・学び直しの機会が充実し、仕事など、その成果を生かすことができる環境が整っていることも必要です。

また、都市機能の集積という強みを生かしながら、建物や道路などのバリアフリー化が進んでいることやデジタル技術の急速な進歩などの機会を捉え、行政手続などにおけるＩＣＴの活用が進んでいるなど、市民生活の利便性が向上していることも求められます。さらに、雪対策については、従事者の不足など、今後の除排雪体制の維持に課題を抱えており、市民や企業との連携やＩＣＴの活用などにより、通勤や通学、外出などの市民生活や経済活動を支える冬期の道路環境を確保していくことが重要です。

### 基本目標４　誰もが健康的に暮らし、生涯活躍できるまち

| | | |
|---|---|---|
| **目指す姿** | １あらゆる世代の市民や企業の健康への意識が高まり、健康づくりや介護予防の取組などに積極的に参加することで、誰もが生涯元気に過ごしています。<br>２誰もが生涯にわたって学び、また、学び直しをすることができ、その成果が日々の生活はもとより、まちづくり活動や仕事、ボランティア活動などに生かされています。 | |
| **私たちが取り組むこと** | **市民・企業など** | **行政** |
| | ○健康への意識の向上<br>○生涯学習への関心の向上と積極的な参加 | ○市民や企業の健康への理解の促進<br>○多様な学びやスキルアップなどのための学び直しの機会の充実 |

## 基本目標５　生活しやすく住みよいまち

| | | |
|---|---|---|
| **目指す姿** | １多様なニーズに応じた住まいが確保されているとともに、在宅医療[17]や身近なかかりつけ医[18]が普及しているなど、医療体制が整い、支援を要する方とその家族は、医療・介護・福祉の連携の下、適切な支援を受けています。<br>２建物や道路などのバリアフリー化やユニバーサルデザイン[19]の導入が進み、誰もが円滑に移動することができ、快適に利用できる環境が整っています。<br>３誰もが申請や相談等の手続をオンラインで完結することができるなど、社会のデジタル化が進むことにより、官民によるサービスの利便性が高まり、市民生活の質が向上しています。<br>４市民・企業・行政の連携やＩＣＴの活用などにより、市民の多様な暮らしを支える交通環境が保たれているとともに、持続可能な除排雪体制の下で冬期の道路環境が確保されています。 | |
| **私たちが取り組むこと** | **市民・企業など** | **行政** |
| | ○多様なニーズに応じた住まいの供給<br>○バリアフリー化やユニバーサルデザインへの理解と導入<br>○マイナンバーカードの積極的な活用<br>○地域住民・交通事業者・行政の協働による公共交通の維持 | ○住まいの確保に課題を抱える方への居住支援<br>○公共施設などのバリアフリー化やユニバーサルデザインの導入の推進<br>○マイナンバーカードの利活用の促進<br>○地域特性に応じた交通環境の維持・確保に向けた取組の推進 |

[17] 【在宅医療】希望する市民ができる限り住み慣れた自宅などで療養し、医師などが訪ねて診療すること
[18] 【かかりつけ医】日頃から患者の体質、病歴や健康状態を把握し、診療のほかに健康管理上の助言などもしてくれる身近な医師のこと
[19] 【ユニバーサルデザイン】文化・言語・国籍の違い、老若男女といった差異や障がい・能力を問わずに利用できるよう配慮された設計（デザイン）のこと

## 3　地域

**＜考察＞**

まちが成熟期を迎え、個々の価値観が多様化しているとともに、市民アンケートの結果などから、地域意識の希薄化という課題が顕在化していることが明らかとなっています。これらのことから、地域コミュニティ等において、年齢・性別・障がいの有無・国籍・民族・宗教・文化などの違いを理解し認め合うなどの心のバリアフリーが進み、これらの違いを超えた交流が行われていることが重要です。

また、年齢にかかわらず誰もが地域コミュニティを育み、大切にする意識を持ち、ライフスタイルに合わせてまちづくり活動に参加できるとともに、こうした活動の担い手の育成が進んでいることが必要です。

### 基本目標６　互いに認め合い、支え合うまち

| | | |
|---|---|---|
| **目指す姿** | １年齢・性別・障がいの有無・国籍・民族・宗教・文化などの違いを互いに認め合い、尊重し合う、平和で包摂的な社会となっています。<br>２世代や国籍を超えた交流や趣味を通じた交流などにより、市民のつながりが深まり、相互の信頼や協力が得られる社会が形成されています。 | |
| **私たちが取り組むこと** | **市民・企業など** | **行政** |
| | ○年齢・性別・障がいの有無・国籍・民族・宗教・文化などの違いに対する理解<br>○交流活動などへの積極的な参加 | ○心のバリアフリーの推進<br>○多世代交流や高齢者の交流の促進 |

### 基本目標７　誰もがまちづくり活動に参加でき、コミュニティを育むまち

| | | |
|---|---|---|
| **目指す姿** | １誰もが自身のライフスタイルに合わせながらまちづくり活動に参加し、支え合いながら地域の課題を解決しています。また、区役所やまちづくりセンターが拠点となり、様々な活動が推進されています。<br>２誰もが市政を身近なものに感じ、計画の立案段階などから積極的に参加しています。<br>３良好な生活環境の維持につながる地域コミュニティの中核として、地縁による団体（町内会・自治会）が生き生きと活動しています。<br>４地縁による団体（町内会・自治会）、福祉のまち推進センター、ＮＰＯ、商店街、企業などの多様な主体が参画し、地域に密着したまちづくり活動が進んでいます。 | |
| **私たちが取り組むこと** | **市民・企業など** | **行政** |
| | ○まちづくり活動への理解や関心の向上<br>○市政への理解や関心の向上<br>○地域コミュニティの意義や重要性の理解と関心の向上<br>○多様な主体によるまちづくり活動の積極的な参加や実践 | ○まちづくり活動の担い手の育成・確保への支援<br>○市政の積極的な情報発信<br>○地縁による団体への加入の促進に対する支援や人的・経費的な負担の軽減<br>○地域特性を生かした活動の促進 |

## 4　安全・安心

**＜考察＞**

地震災害や風水害などの自然災害の頻発や新型コロナウイルス感染症の感染拡大を踏まえ、日頃の備えや情報伝達手段が充実し、災害時や感染症の感染拡大時にも、医療や要配慮者への支援などが適切に提供されているとともに、迅速な生活再建支援などが行われていることが重要です。

また、高齢者人口の更なる増加が予想される中、交通や食についての安全が保たれているとともに、デジタル化の進展により懸念される犯罪やトラブルの発生が防止されていることも必要です。

### 基本目標８　誰もが災害に備え、迅速に回復し、復興できるまち

| | | |
|---|---|---|
| **目指す姿** | １地震災害や風水害・雪害といった自然災害や感染症の感染拡大などが起きても、生活や経済への影を最小化するとともに、感染症の感染拡大を早期に抑えることができています。<br>２災害時や感染症の感染拡大時においても、誰もが安心して医療や介護を受けることができています。また、一人で避難することが難しい方への細かな配慮がなされているなど、被災者の安全が確保されているとともに、復旧復興に向けて誰一人取り残さずに市民に寄り添った支援が行われています。<br>３防災への意識が向上し、誰もが冬季の災害も想定した備えを行っています。また、有事の際には一人一人が主体的に行動し、協力し合うなど、地域の防災力が高まっています。 | |
| **私たちが取り組むこと** | **市民・企業など** | **行政** |
| | ○所有建築物などの耐震化、停電対策、浸水対策や事業継続対策の推進<br>○避難場所や物資の提供などの災害発生時の協力<br>○様々な災害への理解と防災意識の向上 | ○災害時などを想定した各種計画の策定<br>○避難所運営体制の整備や備蓄物資の確保<br>○土砂災害や冬季災害を含めた防災への理解の促進 |

### 基本目標９　日常の安全が保たれたまち

| | | |
|---|---|---|
| **目指す姿** | １犯罪や消費生活に関するトラブルの発生が未然に防止されています。<br>２強じんな消防・救急体制が構築され、市民の安全・安心が守られています。<br>３交通ルールや自転車マナーが遵守され、事故の少ない安全な交通環境が実現しています。<br>４食の安全が守られ、誰もが健やかで豊かな食生活を送っています。 | |
| **私たちが取り組むこと** | **市民・企業など** | **行政** |
| | ○自立した消費者としての意識の向上<br>○自主防火の意識の向上と活動の推進<br>○交通ルール、自転車マナーなどの理解と遵守<br>○食の安全への意識の向上 | ○犯罪や消費生活に関するトラブルを未然に防止する対策の充実<br>○自主防火対策の推進や持続可能な消防団体制の構築<br>○交通ルールや自転車マナーの理解の促進<br>○生産から販売までの安全の確保 |

## ５　経済

**＜考察＞**

一人当たりの市民所得が政令指定都市の中でも低位であることや、生産年齢人口の減少による経済規模の縮小、人手不足などが課題となっています。これらのことから、若者の道外流出の抑制や国内外からの企業、人材等の流入の促進、さらには市民所得の増加に向けて、食の魅力や観光満足度の高さなどの強みを生かし、札幌市の強みである分野や今後成長が期待される分野の産業が市内経済をけん引していることが重要です。

また、地域経済を支える中小企業や商店街などの経済活動が活発となり、デジタル技術の活用により生産性が向上しているとともに、スタートアップ・エコシステムの拠点としての評価を生かしながら、様々な企業の創業や立地が進み、ビジネスチャンスや新たな価値が創出されていることも必要です。

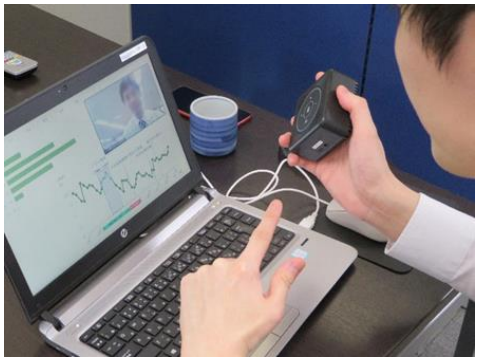
さらに、女性や高齢者の有業率の低さや若い世代の有業者における長時間労働という傾向がある中、希望する誰もが安定して働ける仕事に就いているとともに、価値観やライフスタイルに応じて多様で柔軟な働き方ができる環境が整っていることが求められます。

### 基本目標１０　強みを生かした産業が北海道の経済をけん引しているまち

| | | |
|---|---|---|
| **目指す姿** | １札幌市・北海道の強みである食や観光分野の産業が、時代の潮流を的確に捉え、国内外からの新たな消費を生み出し、札幌市はもとより北海道の経済成長をけん引しています。<br>２ＩＴやクリエイティブ、健康福祉・医療分野の産業が、国内外から投資や人・企業を呼び込み、札幌市の新たな強みとして更なる成長を遂げています。 | |
| **私たちが取り組むこと** | **市民・企業など** | **行政** |
| | ○食分野における国内外への販路の拡大<br>○新技術やデータの活用による製品開発や付加価値の向上 | ○食や観光分野の振興への重点的な支援<br>○ＩＴやクリエイティブ、健康福祉・医療分野の振興への重点的な支援 |

## 基本目標１１　多様な主体と高い生産性、チャレンジできる文化が経済成長を支えるまち

| | | |
|---|---|---|
| **目指す姿** | １中小企業・小規模企業や商店街など、事業を営むもの全ての活動が活発で、地域のにぎわいや経済を支えています。<br>２様々な分野でデータや先端技術が活用され、生産性が向上することにより、人口減少社会においても持続的な経済成長を遂げています。<br>３行政、大学、民間組織などの関係機関が一体となり、起業家を育成・支援する体制や環境が充実し、誰もがチャレンジできる文化が根付くことにより、多くのスタートアップが生まれ続けています。<br>４様々な企業の立地や創業が進むことにより、産学官連携や、国内はもとより海外の企業などとの交流が活発に行われ、ビジネスチャンスや新たな価値が創出され続けています。 | |
| **私たちが取り組むこと** | **市民・企業など** | **行政** |
| | ○地域の店舗の利用<br>○データや先端技術の活用<br>○スタートアップ・エコシステムへの積極的な参画や協力によるスタートアップの創出<br>○国内外の企業などとの積極的な交流 | ○商店街の活性化への支援<br>○データや先端技術の活用への支援<br>○スタートアップ・エコシステムの構築や発展への支援<br>○企業立地の促進 |



## 基本目標１２　雇用が安定的に確保され、多様な働き方ができるまち

| | | |
|---|---|---|
| **目指す姿** | １安心して働くことができる魅力的な雇用が安定的に確保されるとともに、企業も必要とする人材を確保できています。<br>２多様な人材が自身の持つ能力を発揮し、誰もがやりがいや充実感を得ながら働くことができているとともに、高い専門性を生かすことができる職場で、若い世代を始めとした幅広い年代の人材が活躍しています。また、こうした多様性が、イノベーション[20]をもたらすきっかけとなっています。<br>３働きやすい職場環境が整備されるとともに、多様で柔軟な働き方や、仕事と生活の調和の取れた生き方が実現しています。 | |
| **私たちが取り組むこと** | **市民・企業など** | **行政** |
| | ○職業能力の向上や自己啓発<br>○ワーク・ライフ・バランスへの理解と実践（長時間労働の解消など）<br>○働く環境の改善（テレワーク[21]の導入など）<br>○多様な人材の雇用 | ○職業能力の向上や自己啓発への支援<br>○ワーク・ライフ・バランスへの理解と実践に対する支援<br>○働く環境の改善への支援<br>○性別、年齢、国籍、障がいの有無などを問わない多様な人材の就労支援<br>○人材を必要とする業界への支援 |

[20] 【イノベーション】新しい方法、仕組み、習慣などを導入することをいい、新製品の開発や生産方法の改良、新しい資源や原料の開発、組織体制の改変等により、新しい価値を生み出すこと
[21] 【テレワーク】ＩＣＴを活用した、時間や場所に捉われない柔軟な働き方

## ６　スポーツ・文化

**＜考察＞**

豊富な積雪量と都市機能を合わせ持つ世界でも希少な環境を生かし、身近なところでウインタースポーツを楽しむことができているとともに、ウインタースポーツの大規模な国際大会を開催することで、世界から注目が集まっていることが重要です。

また、価値観やライフスタイルが多様化し、人生１００年時代が到来する中、四季を通じて誰もがスポーツを楽しむことができる（する・みる・ささえる）環境が整い、身体活動や競技としてのスポーツの振興が進んでいるとともに、健康増進や共生社会の実現、地域活性化などの社会課題が解決されていることも必要です。

さらに、文化芸術に親しむことができ、創作や表現をすることができる環境と文化芸術を通じた学びや交流の機会が充実することなどにより、心の豊かさや創造性が育まれているとともに、国際的な文化芸術イベントの開催や様々な分野との連携が進んでいることがまちの魅力となり、にぎわいが生まれていることが求められます。

## 基本目標１３　世界屈指のウインタースポーツシティ

| | | |
|---|---|---|
| **目指す姿** | １身近なところでウインタースポーツを楽しむことのできる環境が充実しています。また、札幌市で育ったウインタースポーツのアスリートが国内外で活躍しています。<br>２豊富な降雪量と都市機能を合わせ持つ世界でも希少な環境を生かして、大規模なウインタースポーツ大会を誘致・開催し、世界から注目されています。 | |
| **私たちが取り組むこと** | **市民・企業など** | **行政** |
| | ○積極的なウインタースポーツへの参加<br>○大会開催への支援や協力 | ○ウインタースポーツに参加しやすい環境づくり<br>○大規模大会の誘致・開催 |

## 基本目標１４　四季を通じて誰もがスポーツを楽しむことができるまち

| | | |
|---|---|---|
| **目指す姿** | １誰もがスポーツを楽しみながら、心身共に健康で充実した生活を送っています。また、スポーツで得られた知見が市民の健康づくりなどに生かされています。<br>２スポーツをきっかけに国内外から人が訪れ、地域経済が活性化しています。 | |
| **私たちが取り組むこと** | **市民・企業など** | **行政** |
| | ○積極的な参加（する・みる・ささえる）や交流<br>○スポーツイベントに合わせた交流 | ○誰もが気軽に参加しやすい環境づくり<br>○スポーツによるまちづくり |

## 基本目標１５　文化芸術が心の豊かさや創造性を育み、世界とつながるまち

| | | |
|---|---|---|
| **目指す姿** | １誰もが文化芸術に親しみ、創作や表現ができる環境が整い、多様な価値観が受け入れられています。<br>２札幌市ならではの文化が育まれ、世界に発信され、多くの人が集まるとともに、様々な分野との連携によって新たな価値が創出され、まちの魅力が向上しています。<br>３文化・文化財を適切に保存し様々な形で生かすとともに、札幌市への愛着を深めることで、札幌市の自然・歴史・文化が未来へ継承されています。 | |
| **私たちが取り組むこと** | **市民・企業など** | **行政** |
| | ○鑑賞や創作活動への積極的な参加<br>○文化芸術を活用した交流<br>○文化・文化財の保存 | ○年齢・障がいの有無などにかかわらず、誰もが鑑賞・創作に参加しやすい環境づくり<br>○国際的な文化芸術イベントの開催<br>○文化・文化財の保存 |

## ７　環境

**＜考察＞**

気候変動などに伴う地球規模での環境保全の動きが加速するとともに、世界的なＥＳＧ投資への意欲の高まりが見られる中、「LEED for Cities and Communities」の「プラチナ」認証という高い評価を受けた環境面の強みを生かすことが重要です。

また、多くの人口を抱える大消費地として道内各地域との連携の下に、道内の豊富な再生可能エネルギーや資源を活用しながら、脱炭素社会の実現に向けて先駆的に取り組むことが必要です。

さらに、豊かな自然環境という強みなどを生かし、うるおいや安らぎを与える森林、公園などが保全・創出されていることや、防災や市民交流の場としても活用されていることが求められます。

### 基本目標１６　世界に冠たる環境都市

| | | |
|---|---|---|
| **目指す姿** | １脱炭素社会の早期実現に向け、更なる省エネルギー化に加え、北海道・さっぽろ圏[22]の豊富な再生可能エネルギーの導入拡大や新たなクリーンエネルギーである水素エネルギーの活用のほか、ゼロエミッション自動車[23]の普及が進んでいます。<br>２エネルギー利用に関する世界トップレベルの取組が展開され、高い環境性能と強じん性を兼ね備えた都心が形成されています。<br>３誰もがごみの減量・再使用・リサイクルなどに積極的に取り組むとともに、近隣地域と資源を補完し支え合う地域循環共生圏[24]の形成を含めた循環型社会が構築されています。<br>４誰もが経済・社会とのつながりを理解しながら環境保全や気候変動対策などに取り組んでおり、ライフスタイルの変革や技術革新が進んでいます。 | |
| **私たちが取り組むこと** | **市民・企業など** | **行政** |
| | ○ＺＥＨ・ＺＥＢ[25]の選択や供給<br>○エネルギーネットワークの整備<br>○２Ｒ（リデュース・リユース）を中心とした３Ｒ行動[26]の実践<br>○環境に関する世界情勢やＳＤＧｓへの理解や関心の向上 | ○ＺＥＨ・ＺＥＢや省エネルギー機器などの普及の促進<br>○エネルギーネットワークの整備の促進<br>○２Ｒ（リデュース・リユース）を中心とした３Ｒ行動の促進<br>○あらゆる世代におけるＳＤＧｓを意識した学びの推進 |

[22] 【さっぽろ圏】ここではさっぽろ連携中枢都市圏（圏域内の活力を維持し魅力あるまちづくりを進めるため、平成３１年（２０１９年）３月に形成された圏域。連携中枢都市である札幌市のほか、小樽市、岩見沢市、江別市、千歳市、恵庭市、北広島市、石狩市、当別町、新篠津村、南幌町と長沼町により構成される。）のことをいう。

[23] 【ゼロエミッション自動車】走行中に二酸化炭素を全く排出しない電気自動車（ＥＶ）や燃料電池自動車などの自動車

[24] 【地域循環共生圏】各地域がその地域の資源を最大限活用しながら、自立・分散型の社会を形成しつつ、地域の特性に応じて資源を補完して支え合うことにより、地域の活力が最大限に発揮されることを目指す考え方

[25] 【ＺＥＨ・ＺＥＢ】Net Zero Energy House（ネット・ゼロ・エネルギー・ハウス）・Net Zero Energy Building（ネット・ゼロ・エネルギー・ビル）の略。断熱性能や省エネ性能を上げるとともに、太陽光発電などでエネルギーを創ることにより、年間の消費エネルギー量の収支を実質ゼロにする住まい・ビル

[26] 【３Ｒ行動】ごみ減量行動のリデュース（発生・排出抑制）・リユース（再使用）・リサイクル（再生利用）

## 基本目標１７　身近なみどりを守り、育て、自然と共に暮らすまち

| | | |
|---|---|---|
| **目指す姿** | １森林、農地、公園や河川などの保全・創出・整備により、豊かなみどりのあるまちの中で、誰もが健康的で幸福感の高い生活を送っています。<br>２森林や公園などの身近なみどりが自然との触れ合いや人々の交流の場に加え、防災、経済活動、水源かん養[27]、二酸化炭素の吸収などの多面的な機能を発揮し、都市の魅力やレジリエンス（自己回復力・強じん性）を高めています。<br>３生物多様性[28]が広く理解され、地域本来の生態系が維持された中で自然と人とが共生しています。 | |
| **私たちが取り組むこと** | **市民・企業など** | **行政** |
| | ○保全・創出・整備に関するまちづくり活動への主体的な参加<br>○みどりのオープンスペース[29]の創出<br>○生物多様性への理解 | ○公有地のみどりの保全・創出や民有地のみどりの保全・創出の促進<br>○みどりに関する情報発信<br>○生物多様性に関する保全活動の促進 |

[27] 【水源かん養】ここでは、森林の土壌が、降水を貯留し、河川へ流れ込む水の量を平準化して洪水を緩和するとともに、川の流量を安定させる機能をいう。
[28] 【生物多様性】地球上の多種多様な生き物全てがそれぞれ支え合い、つながり合いながら生きている状態
[29] 【みどりのオープンスペース】公園緑地、河川、みどりのある公開緑地など、みどりに関わる人々が集い交流できる空間

## ８　都市空間

**＜考察＞**

人口減少・少子高齢化の社会においても、持続可能な都市経営を行うには、主要な交通結節点[30]の周辺などに都市機能の集積が進んでいるとともに、市民生活・経済活動を支える持続可能な交通ネットワークが確立されていることが重要です。

また、都市のリニューアル時期の到来や令和１２年度（２０３０年度）末の北海道新幹線の札幌延伸を契機として、国内外から投資を呼び込むことで、都心などで高次の都市機能の集積が進んでいるとともに、広域的な交通ネットワークが充実していることが必要です。

さらに、公共・民間も含めた施設の老朽化対策が課題となる中、インフラや建築物については、必要な規模や機能を踏まえた計画的な更新や複合化が進んでいるとともに、道路空間を滞留空間として活用するなどの都市アセット[31]の利活用が進んでいることが求められます。

【都市空間イメージ図・都市空間の種別の定義】を P29 に掲載しています。

## 基本目標１８　コンパクトで人にやさしい快適なまち

| | | |
|---|---|---|
| **目指す姿** | １都市空間の種別に応じた土地利用と四季の変化が感じられる良好な景観の形成などにより、多様なライフスタイルを実現できる魅力あるまちになっています。<br>２「地域交流拠点」では、商業・サービス機能や行政機能など多様な都市機能の集積が進み、快適な交流・滞留空間や歩きたくなる空間が形成され、様々な活動が行われています。<br>３「複合型高度利用市街地[32]」では、集合型の居住機能と多様な生活利便機能が集積し、「一般住宅地[33]」では、多様な居住機能と生活利便機能が調和を保って立地し、「郊外住宅地」では、地域特性に応じた生活利便機能が確保されたゆとりある良好な住環境が維持されています。<br>４四季を通じて、誰もが快適に利用でき、環境にもやさしい移動環境・手段が整備されることにより、公共交通を軸とした持続可能でシームレス[34]な交通ネットワークが確立されています。 | |
| **私たちが取り組むこと** | **市民・企業など** | **行政** |
| | ○まちづくりに関する計画の策定やエリアマネジメント[35]などへの積極的な参加<br>○景観への関心の向上<br>○地域特性に合わせた投資や開発<br>○四季を通じた公共交通の利便性の向上 | ○まちづくりに関する計画などの策定や推進<br>○土地利用計画制度[36]などの適切な運用<br>○地域特性に合わせた機能の誘導や施設の配置<br>○地域特性に応じた持続可能な公共交通ネットワークの形成 |

---

30 【交通結節点】複数・異種の交通手段の接続が行われる場所

31 【都市アセット】ここでは、地域の資源として存在している、公共的主体が所有・管理する公的なインフラ（道路、広場、公園など）や私的空間の公共的利用（軒先空間のオープンスペース化等）などの民間主体が管理・利用する施設を含む都市における既存施設・空間をいう。

32 【複合型高度利用市街地】おおむね環状通の内側及び地下鉄の沿線、地域交流拠点周辺で、集合型の居住機能と多様な生活利便機能が集積するエリア

33 【一般住宅地】複合型高度利用市街地と郊外住宅地以外で、多様な居住機能と生活利便機能が調和を保って立地するエリア

34 【シームレス】ここでは、交通機関間の乗換えの利便性が向上し、円滑な移動ができる状態のことをいう。

35 【エリアマネジメント】住民・事業主・地権者などが主体となって地域の現状や課題について話し合い、地域における良好な環境や地域の価値の維持・向上につなげる取組

36 【土地利用計画制度】まちづくりの諸施策のうち、都市計画法に基づく制度の一つであり、土地利用に関するルールを定め、個別の建築行為などを規制・誘導することによってまちづくりの目標の実現を図るもの

## 基本目標１９　世界を引きつける魅力と活力あふれるまち

| | | |
|---|---|---|
| **目指す姿** | １「都心」では、民間投資が活発化し、新しい時代にふさわしい高次の都市機能の集積が進んでいます。また、快適な交流・滞留空間やみどりの創出、移動環境の充実により、魅力的でうるおいのある歩きたくなる都心が形成されるとともに、データや先端技術の活用などにより、イノベーションが創出され、新しい価値が生まれ続けています。<br>２「高次機能交流拠点」では、国際的・広域的な観点を持った産業や観光、スポーツ、文化芸術などの都市機能の高度化と集積が進み、国内外問わず、多くのヒト・モノ・投資・情報を呼び込んでいます。<br>３「工業地・流通業務地[37]」では、操業環境の保全や土地利用の再編、低未利用地等の適切な活用などにより、老朽化した施設の更新や機能の高度化・複合化が進んでいます。<br>４広域交通ネットワークの充実・強化により、道内の都市や観光地を始め、国内外の地域とのつながりが深まり、新たな交流が促進され、さっぽろ圏はもとより北海道全体の社会経済活動が活発化しています。 | |
| **私たちが取り組むこと** | **市民・企業など** | **行政** |
| | ○まちづくりに関する計画の策定やエリアマネジメントなどへの積極的な参加<br>○地域特性に合わせた投資や開発<br>○周辺環境と調和しながら行われる、工場などの札幌市内における移転や建て替え・増設<br>○市民、観光客などの広域交通の積極的な利用 | ○まちづくりに関する計画などの策定や推進<br>○土地利用計画制度などの適切な運用<br>○広域交通ネットワークの整備や利便性の向上 |

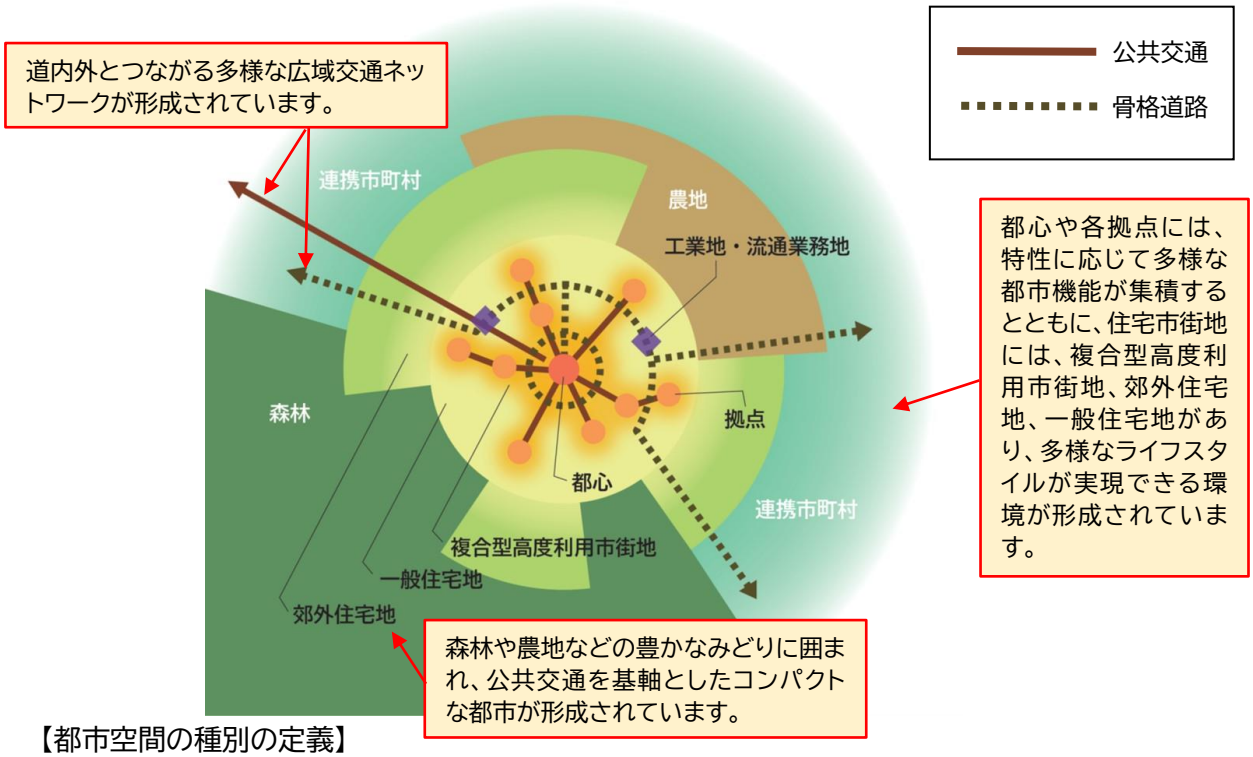
## 基本目標２０　都市基盤を適切に維持・更新し、最大限利活用するまち

| | | |
|---|---|---|
| **目指す姿** | １道路、交通施設、上下水道、公園、河川、廃棄物処理施設等のインフラや、住宅、事務所、区役所、学校、スポーツ施設等の建築物は、老朽化のほか、必要な機能や人口動態、地域の特性なども踏まえ、計画的な維持・保全・更新・再配置・複合化が行われ、誰もが快適に利活用しています。また、ＩＣＴや先端技術の活用により、効率的な維持・保全や施設規模の適正化などが行われています。<br>２公共施設では、整備や運営・維持管理などに関する積極的な官民連携により、市民ニーズ・社会経済情勢を捉えた多様で柔軟なサービスの提供が行われています。<br>３道路や広場などの都市基盤等の空間が有効に利活用され、まちにゆとりやにぎわいが生まれています。 | |
| **私たちが取り組むこと** | **市民・企業など** | **行政** |
| | ○民間のインフラや建築物の計画的かつ効率的な維持・保全・更新<br>○既存施設の性能の維持や向上<br>○既存ストック[38]の利活用の理解や推進 | ○公共のインフラや建築物の計画的かつ効率的な維持・保全・更新<br>○住宅の維持・保全・更新に関する情報提供などの支援<br>○官民の都市基盤や未利用地などの空間の利活用の促進 |

[37] 【工業地･流通業務地】工業や流通業務に係る集約的な土地利用を推進するエリア。
[38] 【既存ストック】これまで整備されてきた道路、公園等のインフラや学校、住宅等の建築物など

## 【都市空間イメージ図・都市空間の種別の定義】

【都市空間イメージ図】




【都市空間の種別の定義】

| | | |
|---|---|---|
| 都心 | | ＪＲ札幌駅北口一帯・大通と東８丁目篠路通の交差点付近・中島公園の北端付近・大通公園の西端付近を頂点として結ぶ、北海道・札幌市の魅力と活力をけん引し、国際競争力を備えた高次の都市機能が集積するエリア |
| 拠点 | 地域交流拠点 | 主要な交通結節点周辺や区役所周辺などで、商業・サービス機能や行政機能など多様な都市機能が集積し、人々の交流が生まれ生活圏域の拠点となるエリア |
| | 高次機能交流拠点 | 産業や観光、文化芸術、スポーツなど、国際的・広域的な広がりをもって利用され、北海道・札幌市の魅力と活力の向上に資する高次の都市機能が集積するエリア |
| 住宅市街地 | 複合型高度利用市街地 | おおむね環状通の内側、地下鉄の沿線と地域交流拠点の周辺で、集合型の居住機能と多様な生活利便機能が集積するエリア |
| | 郊外住宅地 | 市街化区域[39]のうち、おおむね外側に位置し、一定の生活利便機能を有する低層住宅地を主とするエリア |
| | 一般住宅地 | 複合型高度利用市街地と郊外住宅地以外で、多様な居住機能と生活利便機能が調和を保って立地するエリア |
| 工業地・流通業務地 | | 工業や流通業務に係る集約的な土地利用を推進するエリア |
| 市街化区域の外 | | 市街化調整区域と都市計画区域外 |

[39] 【市街化区域】既に市街地を形成している区域とおおむね１０年以内に優先的かつ計画的に市街化を図るべき区域

# 第５章　目指すべき都市像の実現とまちづくりの基本目標の達成に向けて

この章では、「目指すべき都市像」（第３章）の実現と「まちづくりの基本目標」（第４章）の達成に向けて、札幌市（行政）がまちづくりを進めるために必要な考え方を示します。

## １　市民が主役のまちづくり・多様な主体による連携

まちづくりに関係する様々な主体が、第２次戦略ビジョンを共通の目標として広く共有し、それぞれの持つ力を発揮しながら、連携して取り組んでいくことが必要です。

## ２　北海道と共に発展する札幌市

さっぽろ連携中枢都市圏のけん引役としても、関係自治体と共に考え、連携しながら国内外から活力を呼び込んでいきます。

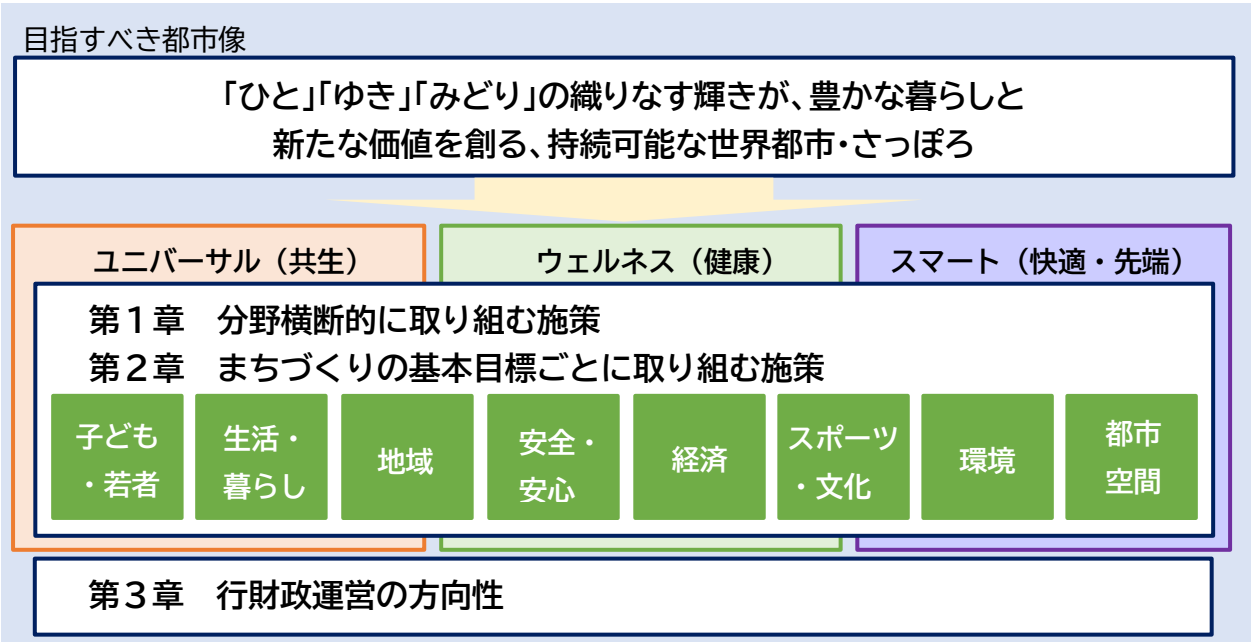
## ３　ＳＤＧｓの視点を踏まえたまちづくり

まちづくりを進めるに当たり、ＳＤＧｓの１７のゴールのみならず、「誰一人取り残さない」という理念や「経済・社会・環境」の３側面の課題の統合的解決という視点を踏まえ、複雑化する課題に対し、多角的な視点から様々な要素を統合的に捉えていくことが求められます。

## ４　第２次札幌市まちづくり戦略ビジョン＜戦略編＞の策定

社会経済情勢の変化等により、今後は、より複雑化した課題が顕在化していくことが予想され、より一層「分野横断的」に課題に立ち向かい、戦略的にまちづくりを進めていくことが重要となります。

そこで、第２次札幌市まちづくり戦略ビジョン＜戦略編＞では、「目指すべき都市像」を実現するため、「まちづくりの重要概念」である「ユニバーサル（共生）」・「ウェルネス（健康）」・「スマート（快適・先端）」を踏まえて、分野をまたがる課題・観点を整理し、分野横断的に取り組む「施策」と「まちづくりの基本目標」ごとに取り組む「施策」を定めます。

その上で、施策の着実な推進を支える観点である行財政運営の方向性についても併せて定めます。

**第２次札幌市まちづくり戦略ビジョン＜戦略編＞の構成**